

【執筆者プロフィール】

佐藤秀孝

一九五三年新潟県生まれ。駒澤大学大学院博士後期課程満期退学。駒澤大学仏教学科教授。新潟県少林寺（曹洞宗）住職。

小川太龍

一九七八年兵庫県生まれ。花園大学大学院文学研究科仏教専攻博士課程満期退学。花園大学非常勤講師。兵庫県常楽寺副住職。

伊藤幸司

一九七〇年岐阜県生まれ。九州大学大学院文学研究科史学専攻博士後期課程修了・博士（文学）。山口県立大学国際文学部文化創造学科准教授。

【編集後記】

お陰様で『臨済宗妙心寺派教学研究紀要』第一〇号が無事刊行の運びとなりました。今回も三名の研究者から優れた研究成果をお寄せ頂きました。

駒澤大学教授の佐藤秀孝先生は、南宋中期に活躍した運庵普巖の事跡と、その古刊本『運庵和尚語録』と流布本『運庵和尚語録』について誠に詳細な考察を加えられ、さらに末尾に古刊本の原文と訓読を附されました。また、山口県立大学教授の伊藤幸司先生は、幻住庵や聖福寺を拠点に活動した幻住派僧の動向を通して、中世博多の禅宗界の動向について検討を加えられました。さらに宗門の布教師であり、新進の研究者でもある小川太龍師は、黄檗希運と南泉普願との関係について、燈史の記述を比較することで検討を加えられ、両禅者の関係が、嗣法関係が無いにもかかわらず密なこと、さらに時代が下るにつれて黄檗の評価が上がることを検証されました。ご執筆頂きました方々には、厚くお礼申し上げます。

さて、第一号の「編集後記」に「ものごとを始めるのは簡単だが、続けることは難しいと言われる。この『研究紀要』が三号雑誌や五号雑誌で終わらない様、これからも教学研究委員会を中心にして一層の努力を重ねて行きたい」と記されていますが、早いもので、本紀要の創刊から十年の月日が流れました。三号雑誌や五号雑誌で終わらなかったのは、ひとえに優れたご研究を発表して頂いた皆さまのお陰です。

しかし、教学研究委員会では、この『研究紀要』が一〇号を迎えたことを区切りに、宗門や学界に限定されず、より広く一般の人々の耳目に触れて頂けるようにと、今後は紙媒体での刊行を止めてインターネット上でのみ公開する、「電子紀要」として刊行を続けていくことと決定致しました。

『紀要』の電子化は、紙の使用を減らすという利点があり、さらに研究者にとっても、文字数にとらわれる必要がなくなり、また、自らの研究成果を、ネット検索を通して簡単に多くの方々に読んで頂くことが出来るという利点もあります。

出版物を電子出版物として発表するという形式は、宗門では初めてのことであり、これからの布教の試金石に

なるものと思えます。

今後も、皆さまからの積極的な研究のご投稿を心より期待致しております。

最後に、電子紀要としての第一歩を踏み出すに当たり、志を新たにするため、今一度、第一号の「編集後記」から引用して筆を置かせて頂きます。

本山開山無相大師には語録が無いが、虚堂智愚・大応国師・大燈国師には立派な語録がある。宗祖臨濟大師は經典を「不浄を拭う故紙」だと言ったが、達磨大師は『楞伽經』を慧可に付与し、六慧能禪師は『金剛經』に註を付けた。不立文字と言いながら禪門の語録が大藏經の大きな部分を占めているのも、まぎれない事実である。

この度、教学部から『研究紀要』を發刊するに当たり、この様な研究を本派で行うのは不必要だとの意見も聞こえてきた。参禪による己事究明こそが禪門の本分であり、文字に執着した研究のための研究が無意味なことは言うまでもない。だが、一部の僧侶は僧堂を出てから坐禪もせず、本も読まず、不立文字を不勉強の口実にして向上しようとする努力すら放棄している様に見える。現代の無著道忠とまでは言わないまでも、学識に裏打ちされた宗門人を育成することも本派の重要な使命だと考える。この『研究紀要』の發刊が宗門への刺激となり、今後、この雑誌を本派僧侶の研究發表の場として活用することによって、禪門を担い更には宗教界全体を支える人材が育つことを心から念ずる次第である。

末筆ながら、教化センターの神足浩正師、並びに神足師の後を引き継いで下さった上野真人師には、事務全般の労を煩わせました。茲に厚くお礼申し上げます。

(廣田宗玄 記)

【電子版『臨濟宗妙心寺派教学研究紀要』論文執筆要項】

《テーマ》 臨濟宗を中心とした禪宗に関するもの。

(ただし、仏教全般にわたる内容で、宗学に資すると考えられるものについては、これを認める。)

《枚数》 執筆者の任意とする。

《書式》 本文は日本語とする。

- ・縦書きを原則とする。(サンسكريット等の資料を中心とした論文の場合は、横書きも認める。)
- ・原則としてワープロソフトで執筆された原稿のみを対象とする。
- ・本文・資料共に漢字は当用漢字を用いることを原則とする。
- ・資料として書き下し文を用いる場合、仮名遣いは新旧任意とする。
- ・資料を口語訳した場合には必ず原文を付すこと。
- ・打ち出し原稿とテキストファイルのデータを提出すること。

《応募先》 〒六一六一八〇三五 京都市右京区花園妙心寺町六四

妙心寺派宗務本所 教化センター TEL〇七五―四六三―三二二一代

※封筒の表に「紀要原稿在中」と明記のこと。

※テキストデータについてはメールでの送付も可能です。詳細は教化センターにお問い合わせ下さい。

《締め切り》 毎年十二月末日(厳守)

《発刊》 翌年四月(予定)。なお次号より、従来までの紙媒体での刊行を取り止めて電子版へ切り替

えるため、妙心寺HP (<http://www.myoshinji.or.jp/>) でのみの公開とする。

臨濟宗妙心寺派

教學研究紀要 第十号

平成二十四年 五月十五日 発行

発行人 松 井 宗 益

編集 妙心寺派宗務本所教化センター

印刷所 中村印刷株式会社

発行所 妙心寺派宗務本所教化センター

〒六一六一八〇三五

京都市右京区花園妙心寺町六十四

電話(〇七五) 四六三一三二二(代)